

色々、五月蠅いね。

だけど、あたしは、  
ポリネシアの血族。海に浮かぶ島々の者。  
8人産んでも2子しか生きて残せなかった祖霊の末の子。

だけど、あたしは、  
一度は魔法使いになり、  
高校卒業13年目にして、  
やっとこさ同級生の妻と再会し、  
今は青年の一人の息子の親になった、  
「うっすら嫌われる中高年のおっさん」。

だからこそ、あたしはブリジット・バルドーの側に立つよ。

あたしは、どうせ「色々分かっていないおっさん」だから、  
おっさん臭いことしか思い付かないし。  
ならば、いっそ、「おっさん臭さ」を引き受けて、  
すごくベタに「天」と「人」と「地」のお話しをする。

「いのち、ばんざい。」

和田聡文 個展

いのち、ばんざい。

会期:2023年7月27日(木)~8月20日(日)

時間:16:00-22:00

休廊日:7月31日(月)、8月7日(月)、  
12日(土)~16日(水)

料金:入場無料

場所:IAF SHOP\*

福岡市中央区薬院3-7-19 2F

TEL:090-5475-5326(佐藤)

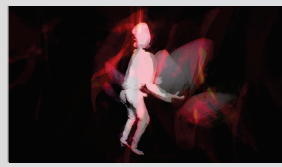
<http://iafshop.tumblr.com/>





「いのち、ばんざい。」

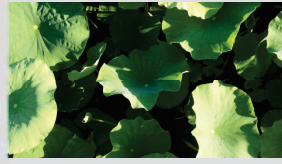
<https://www.youtube.com/watch?v=A6Nv8syTENS>



「よるのかんだた

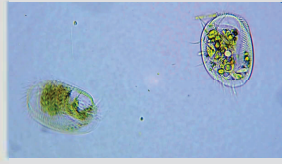
うっすらと排除される「おっさん」という属性について」

<https://www.youtube.com/watch?v=V5GnpNOLLtU>



「Louper Digger Looper」

<https://www.youtube.com/watch?v=IFFif7LwFtw>



「プランクトンダンス」

<https://www.youtube.com/watch?v=ZyDdtBkHNnk>

## 天(伴天連さんの話):

「挑戦」って言葉を知ってるかい？

この島国と伴天連(バテレン)の話だよ。

最初の「挑戦」は戦国時代。「第一次挑戦」ってやつさ。

大海原を渡ってやって来たんだ。揉み手、摺り足、赤ら顔で。

でも、銃器の販売やら、人身売買やら、伴天連同士のもめ事やら、色々あって、お前ら、帰れって、叩き返しちゃった。

次の「挑戦」は幕末から維新。「第二次挑戦」ってやつさ。

真っ黒い船に乗って、煙モクモク、やって来たんだ。

漢字やめれ、アップデートしろ、神社、仏像打ち壊せとか、色々やり過ぎて、嫌われて。案外、不人気。

パアとはしなかったね。

「俺らも案外とすげえ」とか逆に調子に乗られちゃし。

近々の「挑戦」は大戦直後。「第三次挑戦」ってやつさ。

美しい、大きな銀色の飛行機でやって来た彼は、コーンパイプをぶかぶか。

欧米様にはかなわねえ。マッカーサー格好良いとか。

伴天連さん達、大チャンス。

天皇さんに聖書の講義したり、農業国に変えちゃうぞ、とか、亜米利加さん、大盛り上がり。

でも、まあ、隣の半島やら、東の側やら、ゴタゴタ、ピカピカ、どかんどかんで、余裕無くなって、締め付け中途半端。

で、この島国のアップデート人口は1%程度。

しょぼいかぎり。

で、今。

「次にファシズムがやってくるとき、彼らは、「反ファシズム」を掲げてやってくるだろう。」

と、「デイトロフなんとか」が言ったとか何とか言うけど、

四回目の「挑戦」は、どんな顔をして来るのかな？もう来てるのかしらん？

「ソドムの街を火と硫黄で焼き払う」の、逆で来るのかな？

「産めよ、増えよ、地に満ちよ。」の、逆で来るのかな？

「天父神」、「長兄たる救世主」の、逆で来るのかな？

虹の橋を渡って来るのかな？「第四次挑戦」ってやつが。

ブロガー納言と、レディコミ式部と、元祖バ美肉おじさん紀貫之と、古典BL信玄公と、カルーセルと、明宏と、ピーターと、おすぎとピーコと、デラックスと、マンガローブと、天宇受賣命と、阿国と、弥次喜多と、全裸監督、村西とおると、エロ屋ノ小説家ノニュースアンカー、紗倉まなど、オスカルと、ジルベールと、バンコランとひばりくんのこの島に。

また、来るのかな？

生まれて、まぐわって、子らにつなげる  
我らの原罪を問うために。

でも、また来ても言い返すよ。あたしは。  
あたしは、人間だし、生きてるし、おっさんだから。

「いのち、ばんざい。」

## 人(カンダタさんの話):

「カンダタ」のお話って、知ってる？  
お馬ばかばか、愛馬の「カンタカ」君じゃないよ。  
芥川龍之介くん初めての児童文学  
「蜘蛛の糸」のあいつだよ。  
地獄と極楽の間で宙ぶらりんのお友達。

でもさあ、この話、なんか変。  
違和感マシマシ。

この話の「釈迦さん」、なんか上から目線。  
切羽詰まって、焦って、失敗しちゃったカンダタさんに対し、  
「浅ましい」とか「ヤレヤレ愚民は。。。」感、丸出し。  
しょうがないじゃん。カンダタさんは。  
生まれからして元々余裕なんかないんだし。  
「糸切れちゃう！登ってこないでー！」とか、  
そりゃー、言いたくなるよ。安全問題だし。

なのに、何、その、ちょっと一本釣りうまく行かなかったら、  
飽きちゃって、テキトーに放り出しちゃう、投げやり感。  
お腹空かせた虎さんに、我が身ぽーんと投げ出す、  
釈迦牟尼本来のキャラじゃないよね。。。

大体、自分は涼しい顔して、快適な場所に居て、  
面白そうな奴だけ、一本釣りとか、  
衆生を救おうって気概が無いよね。  
福祉事業をなめてんの？  
現場に飛び込んで行って、問題解決せんのかーい！  
我が身ポーンと行かんかーい！！  
大体、カンダタ以外の奴らはみんな、  
亡者、すなわち、アウトオブ眼中。  
目覚めて、アップデートした奴にだけ、  
極楽から「救済」の手を差しのべるとか、  
キリスト教終末論の「携挙(けいきょ)」かよ。  
救ってやるのは伴天連だけで、  
ハルマゲドンで亡者／異教徒は一掃かよ。  
「選民思想」臭え。

手に似合わない「水掻き」なんかを付けてでも、  
なんとかして、なんとかして、漏らさず衆生を救おうってな、  
大乘レスキュー「阿弥陀如来」の気概はどこ行った？

で、さあ。  
このへんちくりんな違和感の話を妻にしたら、  
理系にして日本文学オタクの我が妻も、  
「あたしもヘンだと思ってた」とのこと。  
でね。。。調べてみたの。ちょっとググって、wikiにて。

そしたらさあー。パクリだって。  
ドイツ生まれアメリカ籍の作家ポール・ケーラスの著作  
『カルマ』収録の「The Spider-Web」が元ネタだって。  
タイトルまんまじゃん。。。しかも、この『カルマ』、  
「本場モンの仏教説話を紹介」ってな本なんだけど、  
「The Spider-Web」については「創作」だって。  
本物に創作混ぜ混ぜ、仏教説話の捏造じゃん。

パクリとか知らなかったわー。龍之介やらかすなー。  
バチモンの仏教説話とか知らなかったわー。  
ポール、やらかしおったなー。  
そりゃー。「ヘン」だわな。釈迦のキャラじゃないわなー。  
仏じゃないじゃん。偽仏じゃん。仏罰モンだわー。

「自分ばかり地獄からぬけ出そうとするとか、  
無慈悲だわー。浅間しいわー。」とか、  
「蓮の華の何とも云えない好い匂い」の  
爽やかな極楽の風に吹かれて、のほほんしてる  
偽仏のてめえこそ、文句言える立場？？  
「どうでも良いわー。平等に地獄に落ちればー。」  
とか、なにその「タワマン文学」。  
「瞑想」じゃなくて、「マインドフルネス」、  
「ヨガ」じゃなくて、「ピラティス」とか、  
言い出すんじゃないの？  
あらまー！「カッコイイ消費者」ですことっ！！  
「丁寧な暮らし」ねっ！！  
美しい、大きな銀色の摩天楼から見下ろしてる  
虚業の小金持ちみたい。

カンダタ君もさあ、  
タワマン野郎に「いいね！」とか声かけられて、  
「一歩抜け出すチャンス！！」とか  
調子に乗るの止めようよ。  
良いことないって。  
あいつらさあ、ペットか番犬探しているだけだから。  
カワイソウな順か、カワイ順に声掛けてるだけだから。  
カワイソウな奴に餌やると「徳」を積めるし。  
「徳」＝「信用」＝「クレジット」＝「通貨」だから、  
儲かんのよ。「カワイソウなペット」を飼うと。

大体、地獄って、年季を勤め上げると、  
生前よりちょっとは良いステージに行けるし、  
学校みたいなもんじゃん。  
周りにいる奴らもカンダタ君と似たようなもんで、  
みんな生前、色々苦勞してるし、  
タワマン野郎よりずっと共感できるじゃん。  
鬼だって学校の先生みたいなもんで、  
死なないように注意して、君を鍛えてくれてるだけで、  
ちゃんと良く見てくれてるじゃん、君のこと。  
ウエメセのタワマン野郎よりずっと。

ヘンな上昇志向に捕らわれて、痛い目見るより、  
実直に自分の手で、地に足付いたコトをしようよ。

そうだ。友達を作りなよ。愛する人を作りな。  
出来たら家族になって、子供を育てなよ。  
老いて子供がもう無理なら、若い者を応援しなよ。  
虚業で浮いてるタワマンの偽仏よりずっと良いよ。  
地に足を付けて生きるってことだよ。

だから、「ちごく」で結構。大「地」の「極」み。  
だから、おっちゃんは叫ぶよ。

「いのち、ばんざい。」

## 地(生き物の話):

やあ、こんにちわ。僕らの名前は「オピストコンタ」。  
「尻尾が後ろ」って意味だよ。  
人間の精子みたいな形なんだ。  
キノコとか、ツボカビとかの菌類と、  
人間とか、魚やミミズ、トンボなんかの多細胞の動物を  
ザックリ含んだフレンズさ。  
襟鞭毛虫なんかのちっこい奴らも僕らの仲間さ。

世の中、僕ら「オピストコンタ」だけじゃなくて、  
色んなフレンズがいるよ。  
土の中にも、蓮のお池の中にも、地べたの上にも。  
「真核生物」に限っても色々いるよ。  
「オピストコンタ」の兄弟分「アメーバ動物」  
草花や樹木とかを含むフレンズの「アーケプラスチダ」  
昆布とか珪藻とかのフレンズの「ストラメノパイル」  
ゾウリムシとかのお友達「アルベオラータ」  
有孔虫、放散虫のフレンズ「リザリア」  
ミドリムシとか光合成する奴もいる「エクスカバータ」  
「クリプト植物」とか「ハプト植物」とか「太陽虫」  
「真核」じゃなくて、「原核」だけど、細菌も色々。  
シアノバクテリア(藍藻)とかを含むフレンズ。

美しい、大きな銀色の鏡胴を持つ顕微鏡で、  
小さな水滴に閉じ込められた彼らを、上から覗き込むと、  
色んなフレンズが、わちゃわちゃ、わちゃわちゃ、してて、  
本当に、本当に、面白いよ。例えば、

放置しちゃった植木鉢の雑草の中。  
劣化したプランターの壁面。  
ジメジメ湿った苔の上。  
蓮のお池の水の中。  
只の水溜まり。  
蟻の行列。  
蝸牛。  
藻。  
蝶や蛾。  
ダンゴ虫。  
マルトビムシ。  
苔の子実体の森の中。  
ぐるぐる回るミズヒラタムシ。  
慌てて席取りをするクラミドモナス。  
巨大なミジンコの屍骸を喰らう原生動物。

ほとんどが単細胞で、小さくて、単純なはずの生き物が、  
ぐるぐる踊ったり、パクパク食べたたり、  
ぶつかってビックリしたり、キョロキョロあちこち覗き込んだり、  
居場所を見つけたり、喧嘩したり、慌てて逃げまどったり。  
多細胞生物ではなく、ただの「群体」に過ぎないのに、  
喧嘩せずにお互いしっかり体をつないで、  
ぐるぐるぐるぐる泳ぐ、ヒゲマワリ(ボルボックス)やシヌラ。  
動物じゃないと思っていたら、  
意外とクネクネ、クルクル、活発に動く、シアノバクテリア。  
小舟みたいに、スイスイ走り回る、小さな小さな珪藻たち。  
独立した多細胞生物のはずなのに、  
まるで一個の生き物のように合体してしまうイトヒメウズムシ。

それに、なにより面白いのは、  
ご先祖の「古細菌」から、ずっと昔に枝分かれして、  
お互い全然違う見た目や、違う生き方をしている  
遠く離れたフレンズたちのはずなのに、  
みんな、みんな、わちゃわちゃ、わちゃわちゃ、わちゃわちゃ、  
ぶつかり合ったり、喧嘩したり、身を寄せ合ったり、協力したり、  
まぐわり、接合して、次世代を作ったりすること。  
知ってる？生物の世界において、  
「成体(アダルト)」とは、「生殖可能となった個体」という意味。  
子供を作るのが「おとな」なのさ。

.....  
ちょっと違う話をするよ。「シン・ウルトラマン」って映画の話。  
その映画の中で、ウルトラマンは、頭の先からつま先まで、  
均質な物体で出来た、微細構造を持たない完全体とされる。  
「一にして全、全にして一」な完全な個体。ほぼ神。  
当然、マンガ「はたらく細胞」みたいに  
わちゃわちゃ、わちゃわちゃ、協力し合う、  
たくさんの細胞を持つ「多細胞生物」ではない。  
理念、思想の固まり、孤高で単一の「思念体」。  
外宇宙から来た、美しい、大きな銀色の飛行体。  
よって、本質的に「個と個の(細胞)間の協力」は、  
その身体自身に内在せず、  
「バディー(仲間)」の意味がまったく分からない。  
(映画では、故郷は「光の星」。国家は無い。)  
(彼は人類と同種のものから進化した存在。)  
彼は弥勒菩薩の様に完全な美(統一感)の化身だが、  
無関係の子供を助けて死んだ男のことが分からない。  
進化の最果てに居る彼には、「仲間」の意味が思い出せない。  
遠い未来に來迎する弥勒菩薩の様なポーズをとって、  
死んだ男の姿を掌に、森の中で悩み続ける。  
覚えていたが、今は忘却した何かを思い出そうとして。  
強くて、全知で、大きくて、けれど孤高のウルトラマンには、  
起動してしまったゼットンを抑える術が分からない。  
なのに、弱くて、無知で、小さくて、愚かな人間たちは、  
ぶつかり合ったり、協力したり、怒ったり、信じあったり、  
ドキドキしたり、お尻パンパン気合を入れたり、  
わちゃわちゃ、わちゃわちゃ、わちゃわちゃ、  
ゼットンを抑える解決策を見つけ出す。  
上から目線の外星人たちには出来なかったことを、  
小さな「はたらく細胞」みたいな人間たちが成し遂げる。  
VRゴーグルを付けての独り言、虚空に手をブンブン、  
滑稽で、とっても格好悪いけれど。

.....  
ずっとずっと昔に進化の枝分かれをする前から、その後も、  
地べたに這いつくばって生きる「いのち」の本質は、  
わちゃわちゃ、わちゃわちゃ、わちゃわちゃ、  
ぶつかり合ったり、喧嘩したり、食べ合ったり、  
身を寄せ合ったり、協力したり、  
まぐわって、子供を作ったり、育てたりしながら、  
「なんとか必死に次につなげ続けること」なんだろう。

人間も明確に動物だし、生き物だし、「いのち」。  
だから、おっさんは、勇気を出して、ベタなこと言うよ。  
わたしは、一人の息子の父親だから。  
ショーペンハウアーとか、シオランとか、ベネターとか、  
そんな馬鹿どもの言うこと知るか。五月蠅い。

「いのち、ばんざい。」